



NAKATANI Chiaki  
中谷 千晶 氏

【Profile】

2012年3月 教育学部人間発達科学科卒業。

インテリア商社 人事担当。

高校生の時に、講演会で感動して悩みが晴れる経験をしました。他の言葉で気持ちを動かされる“人の心のメカニズム”に興味を持ち、心理学を学ぶために教育学部を受験しました。入学当時は、臨床心理士を目指していました。

2012年取材

### 学部ではどんなことを学びましたか？

高校時代は「心理学＝カウンセリング」という印象を持っていましたが、教育学部では様々な機器を用いた研究手法を実践しました。例えば、脳波計測や知能検査、質問紙による統計的分析などです。人の感情や思考を科学的に読み解く術を学びました。小学生向けの知能検査の実践では、児童の回答時間や正答数から、性格傾向や長所・短所を導き出しました。こうした検査の結果は、過去の膨大な研究成果に裏付けられたものです。研究の積み重ねの大切さを実感できる貴重な経験でした。

### 卒業論文の内容を教えてください。

卒業論文のテーマは、「リアリティ・ショック」でした。「リアリティ・ショック」とは、頭でイメージしていたことと現実のギャップによって衝撃を受けることです。大学生約300名を対象に、高校時代の大学のイメージと現実のギャップを調査しました。このテーマを選んだ理由は、私自身も大学入学時に「リアリティ・ショック」を感じたからです。自分自身の経験から課題を見つけました。講義や演習で学んだ専門知識で身近なテーマを探求できるのは、心理学の魅力のひとつです。

### 現在の仕事について教えてください。

インテリア商社の人事担当です。「人の心を支える仕事がしたい」と高校生の時からずっと思ってきました。教育学部入学時は、臨床心理士や心理職の公務員を志望していましたが、自分自身の視野を広げるために一般企業にも目を向けました。こうして就職活動をするうちに、企業で働く人たちの心に寄り添える人事の仕事に興味を持ちました。現在は、主に採用活動に関わっています。就職活動に熱を入れる大学生と向き合う仕事です。会社の魅力や仕事のやりがいを少しでも伝えるために知恵を絞っています。

### 大学での経験は仕事で活かされていますか？

大学生との面談では、志望動機や自己PRなどを聞きます。採用活動で、応募者と話せる機会は限られています。その人の性格や特長を短時間で見極めることが重要です。けれども、大学生の中には緊張で普段通りの自分を出せない人も少なくありません。それゆえに、気持ちを和らげて本音を引き出す「聞く力」が必要なのです。こうした場では、大学で学んだカウンセリングのノウハウが役立っています。相談者の言葉を引き出すコミュニケーションは講義で練習しました。応募者との距離を縮めて、互いにとって良い出会いを生み出していきたいと思っています。